

岩手県感染症週報

平成27年第43週(10月19日～10月25日)

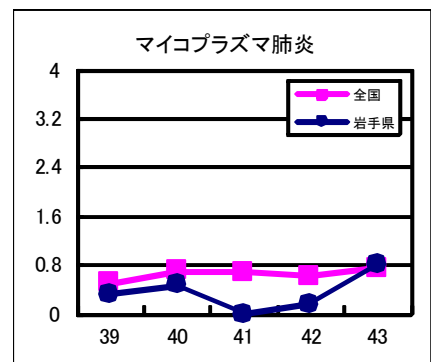
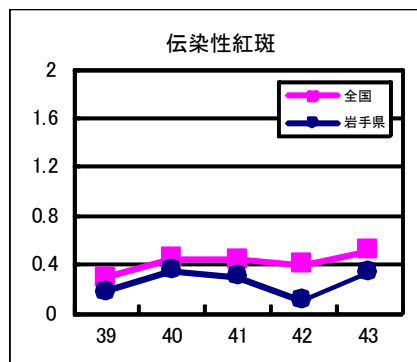
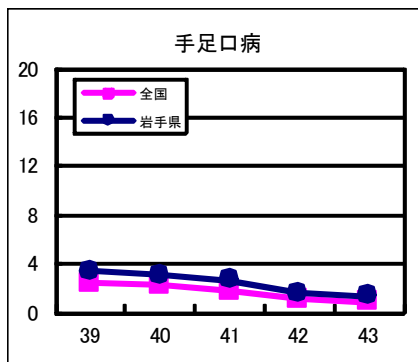
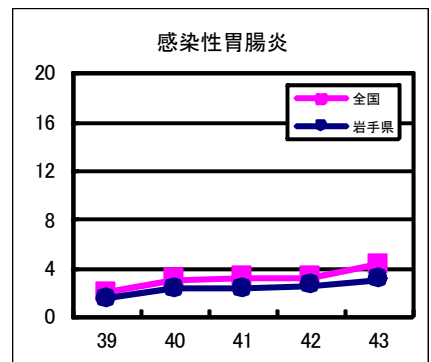
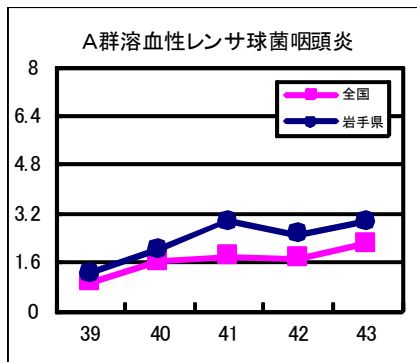
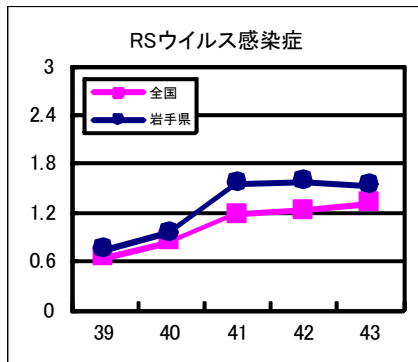
岩手県感染症情報センター

第43週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が10例ありました。このうち、2例が潜在性結核感染症例の報告です。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症の患者の報告が、盛岡市より1例ありました。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の患者の報告が、奥州地区より1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・梅毒の患者の報告が、大船渡地区より1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・RSウイルス (RSV) 感染症は、前週とほぼ同じ報告数がありました。例年冬にかけてさらに報告数が多くなるので、注意が必要です。本疾患は、乳幼児に多い急性呼吸器感染症で、発熱、鼻汁などの上気道症状の後、気管支炎や肺炎等の下気道症状が現れ重症化する場合があります。また、終生免疫が獲得されないので、家族から乳幼児への感染や、基礎疾患のある高齢者は重症化に注意が必要です。患者の咳やくしゃみなどの飛沫や接触により感染するので、手洗い、マスクの着用や咳エチケットなど基本的な予防対策が重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、これから冬にかけて本格的な流行時期を迎えるので、注意が必要です。盛岡市では保育園においてサポウイルスおよびエンテロウイルスによる集団感染事例が1例発生しました。石けんと流水による手洗い、食材等の十分な加熱、排泄物の適切な処理など、予防対策の徹底が重要です。
 - ・マイコプラズマ肺炎は、定点あたり患者数0.79人と前週0.16人より増加しました。例年冬にかけて患者数が多くなるので注意が必要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		39	40	41	42	43		
インフルエンザ	岩手県	0.02	0.06	0.05	0.05	0.03	→	
	全国	0.05	0.04	0.06	0.08	0.1		
RSウイルス感染症	岩手県	0.75	0.95	1.55	1.58	1.53	→	☆
	全国	0.64	0.84	1.18	1.22	1.31		
咽頭結膜熱	岩手県	0	0.05	0.03	0.03	0.08	→	
	全国	0.18	0.27	0.25	0.26	0.31		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.23	2.03	2.93	2.5	2.95	→	☆☆
	全国	0.94	1.61	1.8	1.72	2.2		
感染性胃腸炎	岩手県	1.55	2.38	2.4	2.58	3.13	→	☆
	全国	2.01	3.12	3.25	3.3	4.33		
水痘	岩手県	0.35	0.4	0.2	0.7	0.18	→	☆
	全国	0.25	0.31	0.27	0.33	0.36		
手足口病	岩手県	3.4	3.05	2.7	1.6	1.35	↘	☆
	全国	2.41	2.25	1.73	1.09	0.84		
伝染性紅斑	岩手県	0.18	0.35	0.3	0.1	0.33	→	☆
	全国	0.29	0.45	0.44	0.4	0.51		
突発性発疹	岩手県	0.28	0.45	0.38	0.38	0.48	→	☆
	全国	0.35	0.52	0.48	0.46	0.51		
百日咳	岩手県	0	0	0.03	0	0.03	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.38	0.43	0.1	0.15	0.05	→	
	全国	0.34	0.37	0.27	0.14	0.11		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.03	0.15	0.05	0.1	0.08	→	
	全国	0.45	0.6	0.58	0.56	0.68		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.07	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.14	0.07	0.14	0.43	0.43	→	☆
	全国	0.84	1.09	0.91	0.81	0.95		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.04	0.06	0.04	0.04	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.32	0.47	0	0.16	0.79	↗	☆
	全国	0.5	0.7	0.68	0.61	0.75		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.03	0.01	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0.05	0.05	0	0.05	→	
	全国	0	0.01	0.02	0.02	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	1	0	0		
	全国	5	5	9	6	8		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		39	40	41	42	43		43	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	6 (4)	3 (2)	10 (8)	5 (0)	10 (2)	210 (94)	367	19603
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	4
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	135
	腸管出血性大腸菌感染症	1	0	0	2	1	84	36	3264
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	2	30
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	28
四類 感染症	E型肝炎	0	1	0	0	0	6	4	156
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	2	212
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	13
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2	54
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	14
	つつが虫病	0	0	0	0	0	5	4	88
	デング熱	0	0	0	0	0	0	6	251
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	9	181
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	1	1
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	39	
野兎病	0	0	0	0	0	0	0	2	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	8	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	1	
レジオネラ症	0	3	0	1	1	21	14	1326	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	23	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		39	40	41	42	43	累計	43	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	8	10	892
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	2	3	203
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	2	29	1349
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	3	7	415
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	1	13
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	2	150
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	2	6	348
	後天性免疫不全症候群	0	1	0	0	0	3	17	1142
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	3	3	192
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	27
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	14	21	1800
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	3	2	242
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	1	1	43	2037
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	94
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	96
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	50
	風しん	0	0	0	0	0	1	1	145
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	29	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	25	

今注目の感染症

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという小型の細菌を原因とする呼吸器感染症です。幼児期から学童期に多い肺炎ですが、全年齢層で患者が認められます。感染経路は、飛沫感染、接触感染で、潜伏期間は2～3週間と長く、症状は発熱、全身倦怠、本疾患に特徴的な長く続く乾性の咳です。

治療は、マクロライド系 (エリスロマイシン、クラリスロマイシン等) が第一選択薬とされています。

予防には、手洗いやうがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚接触を避けることが重要です。

岩手県の発生状況は、2015年は例年に比べ患者数の低い値で推移していますが、例年冬にかけて報告数が多くなるので今後注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 マイコプラズマ肺炎とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/503-mycoplasma-pneumoniae.html>

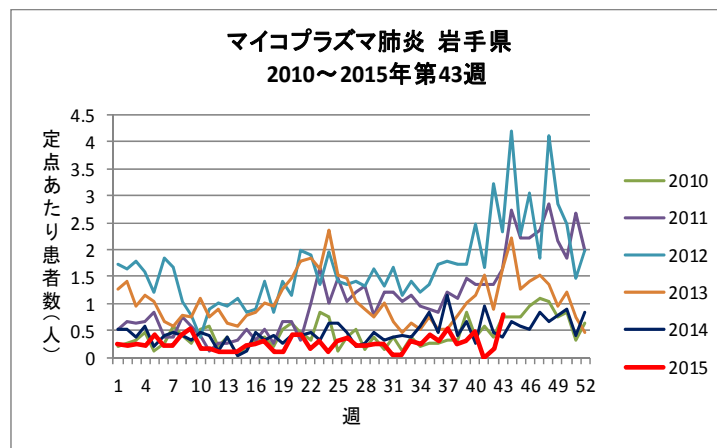


図1 マイコプラズマ肺炎 岩手県の年別流行状況

今注目の感染症 (つづき)

RSウイルス感染症

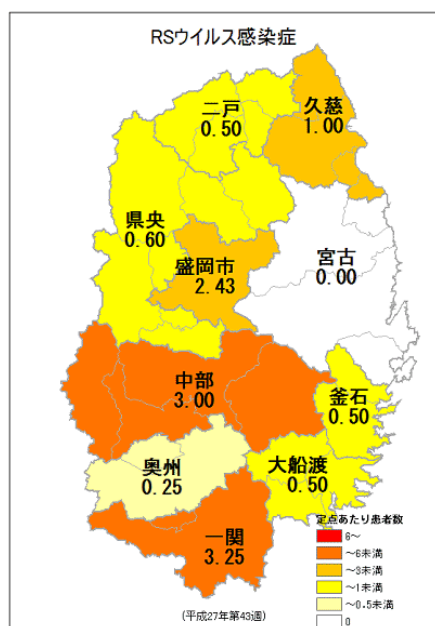
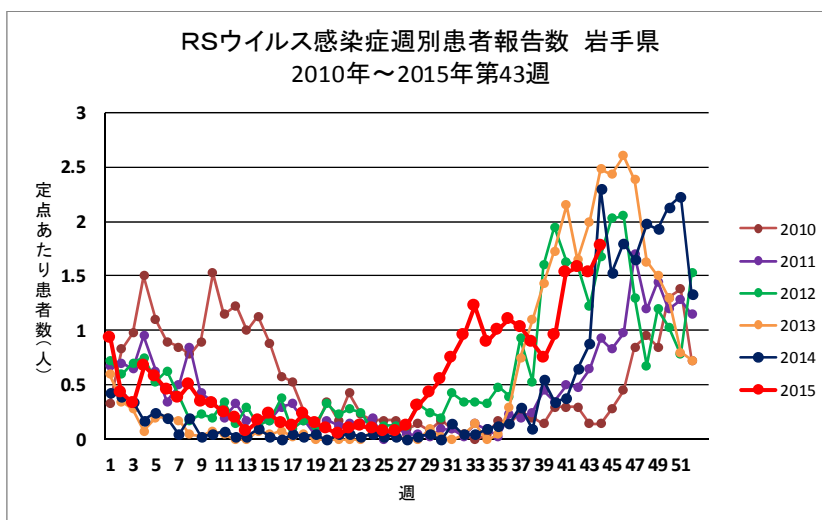
RSウイルス感染症は、秋から冬にかけて流行するRSウイルスによる急性呼吸器感染症です。何度も感染と発症を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1回は感染するとされています。

症状は、軽い風邪症状から重い肺炎まで様々ですが、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれており、乳児、特に乳児期早期にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎など重篤な症状を引き起こすことがあります。そのため、乳児期早期の感染を避けるための注意が必要です。

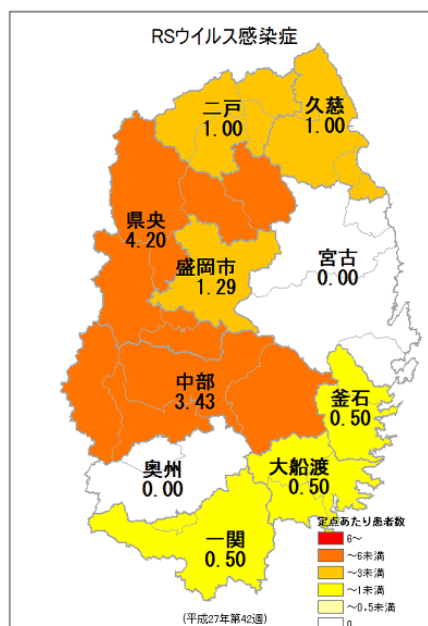
感染経路は飛沫感染および接触感染(鼻水や喀痰のウイルスが手指や器物を介して感染)です。予防には、手洗いや咳エチケットが重要です。

参考 厚生労働省 RSウイルス感染症Q&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html



第43週



第42週

今注目の感染症 (つづき)

手足口病は、口の中や手足に現れる発疹を主症状とした急性ウイルス性疾患です。乳幼児を中心に主に夏に流行する疾患です。3～5日の潜伏期において、口の中、手のひらや足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することがあります。

基本的には、数日で回復する予後良好な疾患ですが、まれに髄膜炎や脳炎を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合は小児科受診が必要です。

岩手県の発生状況は、6月下旬から増加が続き、第31週には県内で警報値(定点あたり患者数5人)を超えました。その後、第38週まで8週続けて警報値を超えた状況が続きました。

第39週から減少が続いており、第43週は、警報値を超えているところはありません(図1)。

病原ウイルスは、主にコクサッキーA16(CA16)、CA6、エンテロウイルス71(EV71)などのエンテロウイルスですが、他のエンテロウイルスによっても発症します。

県環境保健研究センターで、2011年から2015年第33週までに、手足口病およびヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスを年別に示しました(図2)。

手足口病及びヘルパンギーナは、咳等の飛沫感染のほかに、便中にもウイルスが排出されるため、予防には手洗いの徹底が重要です。

手足口病

図1

手足口病 岩手県 2010-2015.第43週

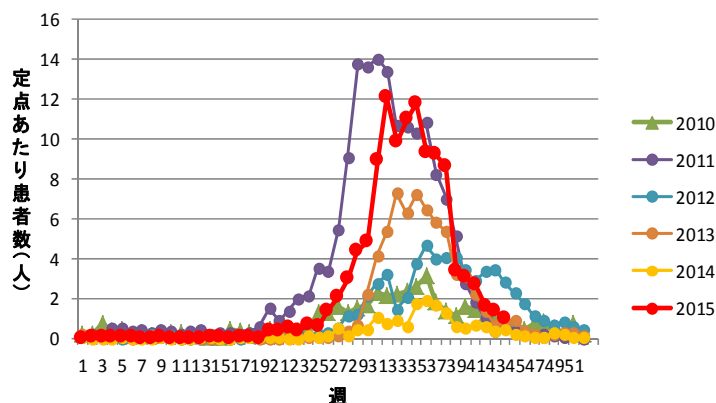
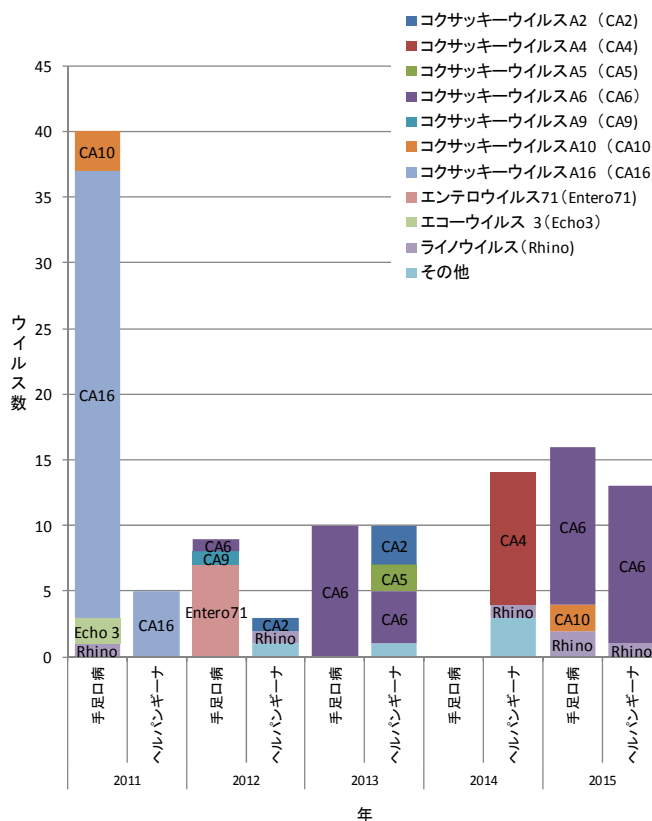


図2 手足口病とヘルパンギーナの患者から分離されたウイルス



感染症研究所 手足口病とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>

全国の週別の分離・検出状況

ヘルパンギーナ <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/Byogentai/Pdf/data26j.pdf>

手足口病 <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/Byogentai/Pdf/data115j.pdf>

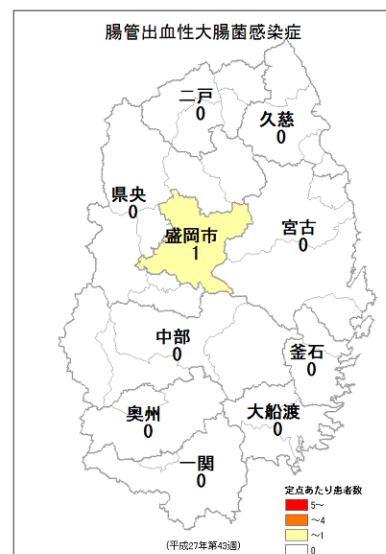
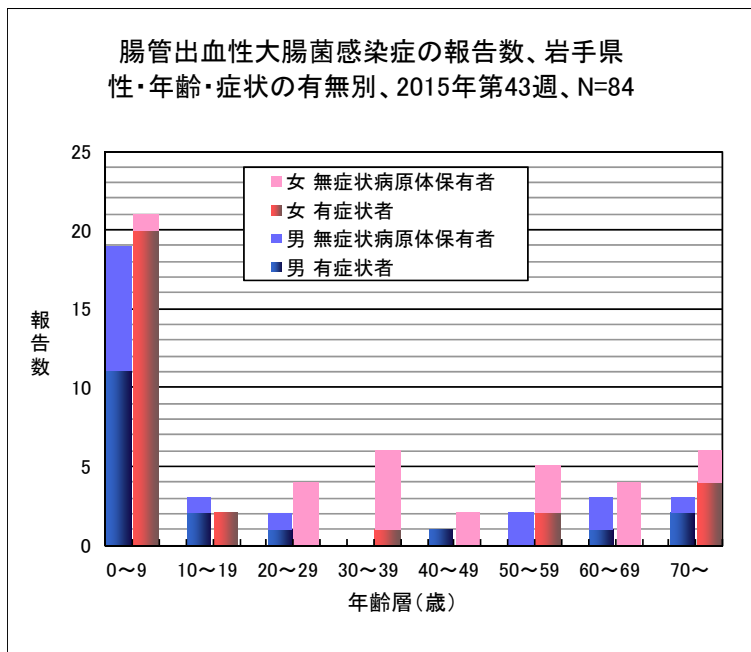
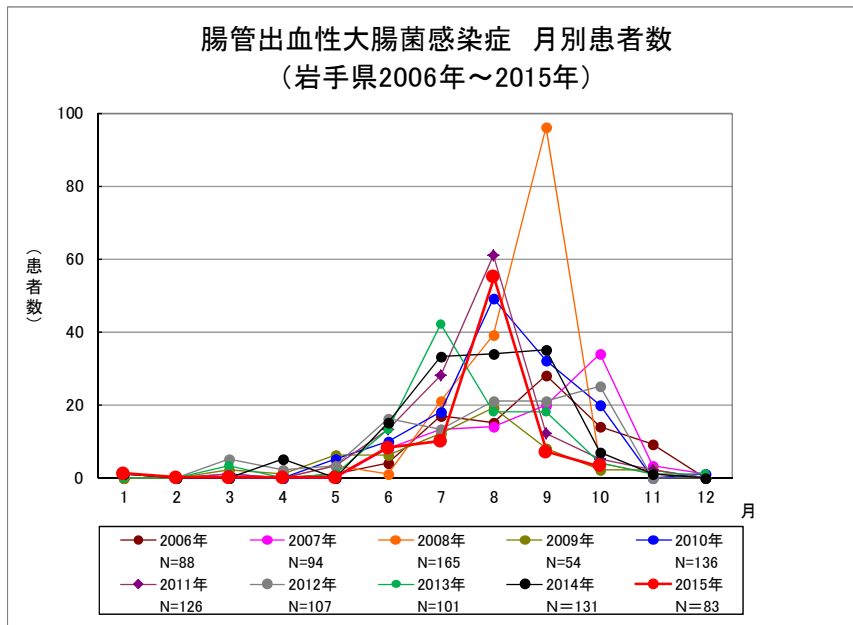
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Verotoxin:VT またはSigatoxin:Stx)を産生する大腸菌が原因の腸管感染症です。症状は、無症状から、軽度から重度の下痢、激しい腹痛、致命的なものまで様々な臨床症状があります。

岩手県の平成27年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、第43週までに84例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が20例、O26が50例、O111が5例、O128が2例、O55が1例、O103が2例、O168が1例、O型不明が3例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く40名、次いで70歳以上が9名となっています。

本症の予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水による手洗いの励行が重要です。



第43週

病原体検出情報

- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを2件およびアデノウイルス4型を1件、それぞれ検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、パラインフルエンザウイルス3型を8件、ヒトメタニューモウイルスを3件、ライノウイルスを3件、RSウイルス、アデノウイルス1型、アデノウイルス5型およびA群コクサッキー6型を1件ずつ、それぞれ検出しました。
- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキー6型を3件それぞれ検出しました。
- ・ヘルパンギーナの患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキー6型を5件、ライノウイルスを2件、それぞれ検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、アデノウイルス2型を2件、アデノウイルス5型を1件、ノロウイルス遺伝子群IIを2件、アストロウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・不明熱の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス3型を1例、パラインフルエンザウイルス3型を2例、それぞれ検出しました。
- ・水痘の患者の痂皮から、水痘・帯状疱疹ウイルスを1件検出しました。
- ・発疹症の患者の痂皮から、単純ヘルペス1型1件検出しました。
- ・流行性角結膜炎の患者の結膜ぬぐい液から、アデノウイルス3型およびアデノウイルス37型をそれぞれ2例ずつ検出しました。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

盛岡市内の保育園（園児119名、職員30名）

- ・10月4日（日）から10月26日（月）にかけ園児24名に症状（嘔吐、下地、発熱等）
- ・有症者6名からサポウイルス、3名からエンテロウイルスを確認（1名重複）

医療機関からの情報

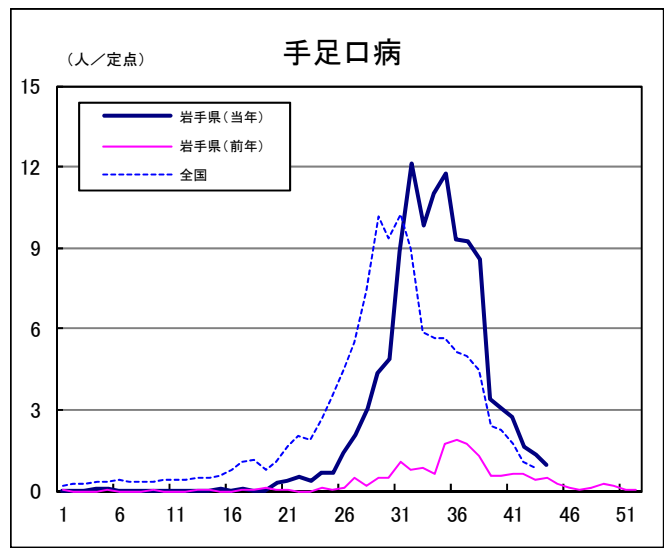
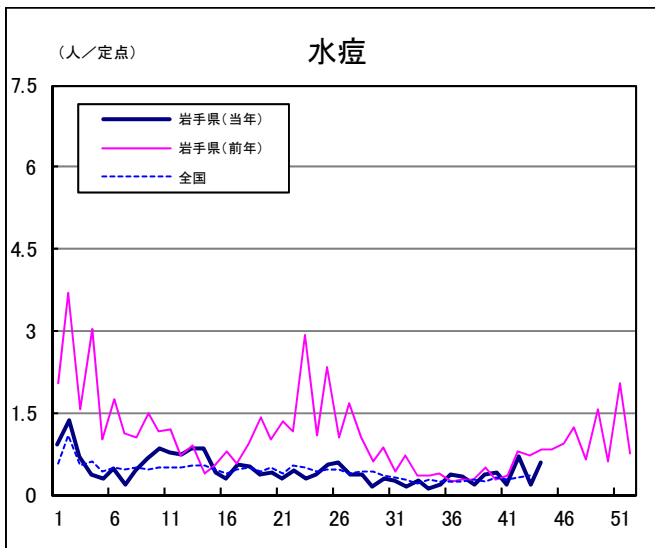
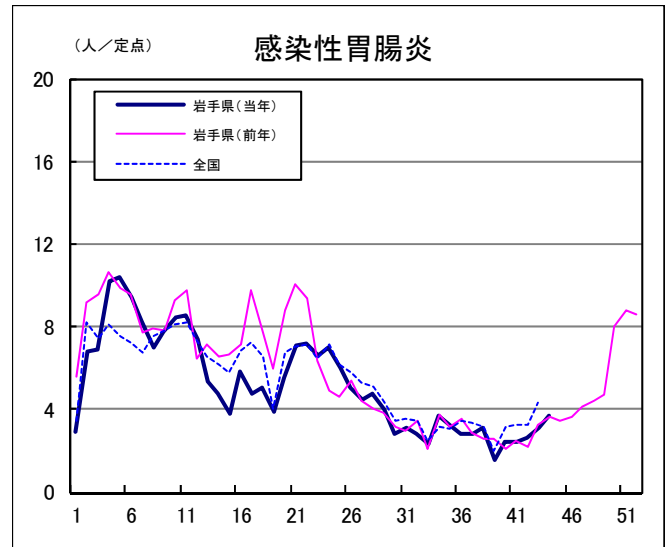
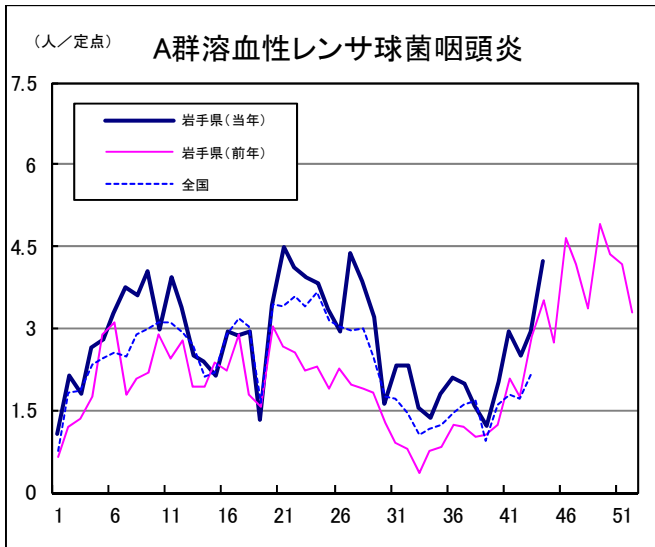
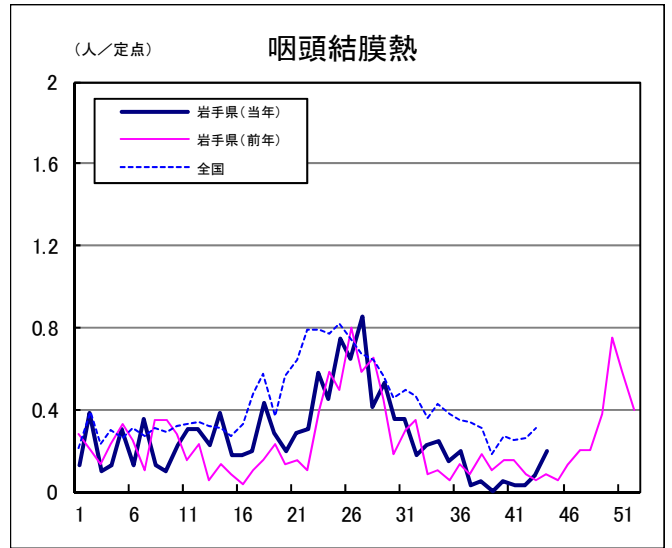
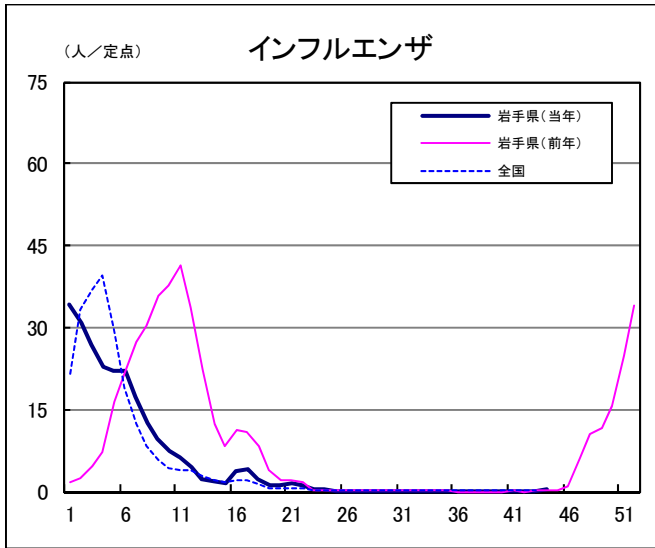
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

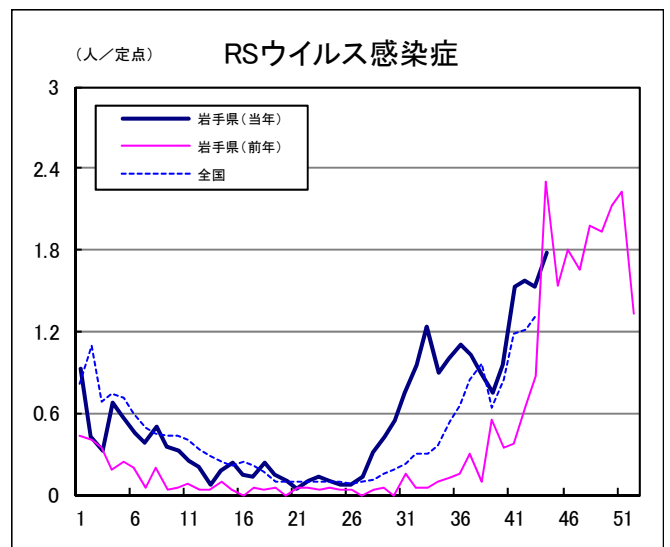
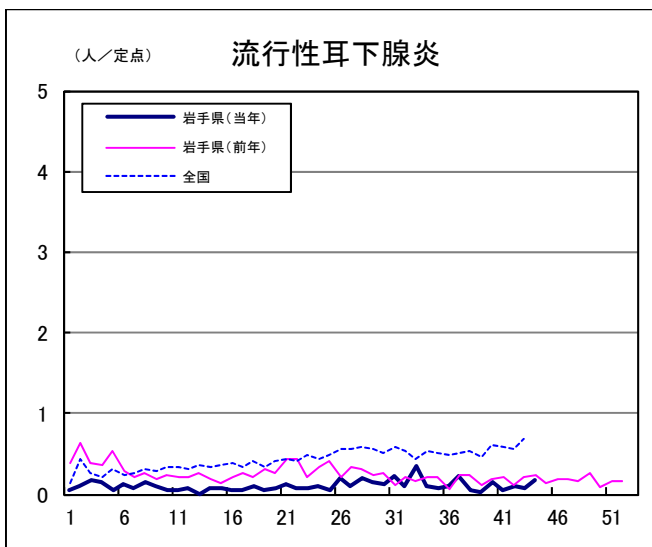
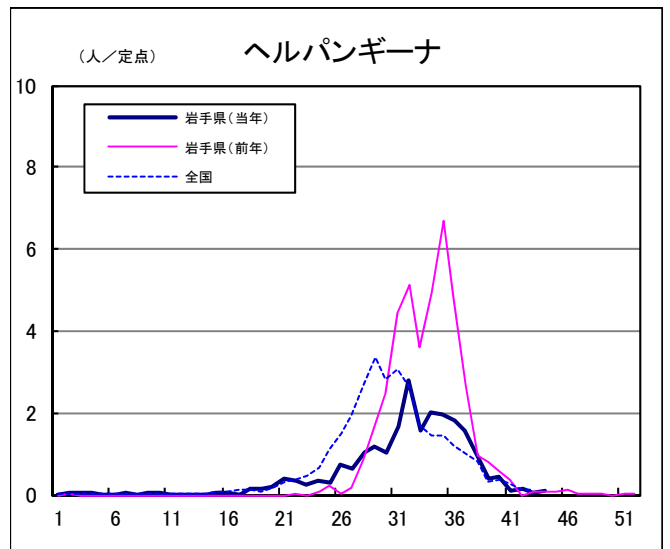
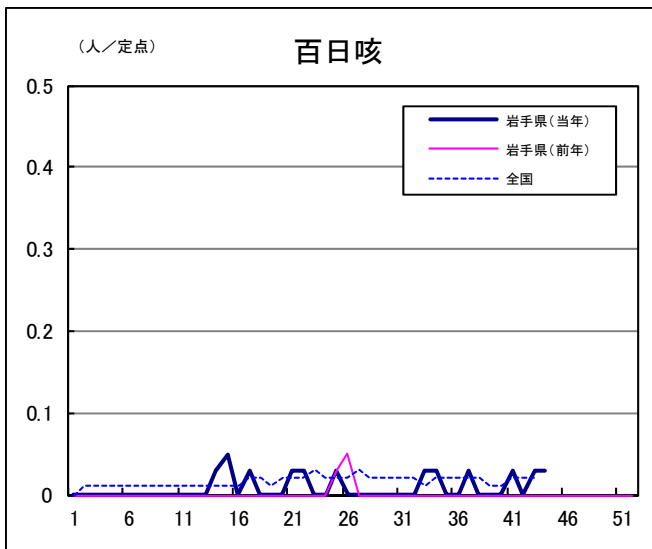
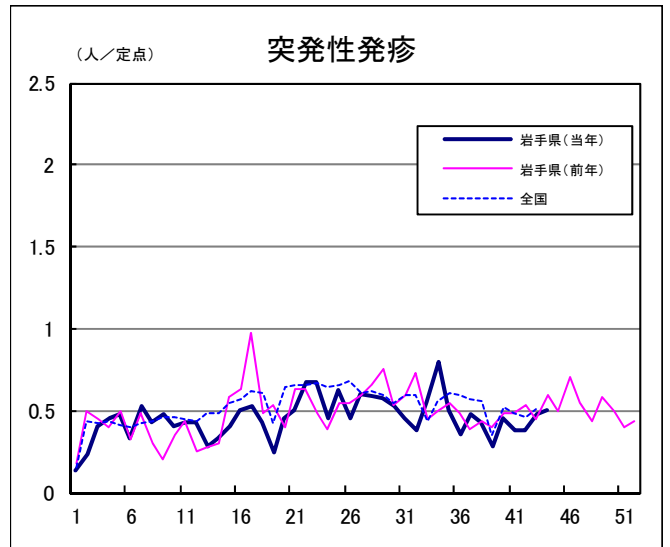
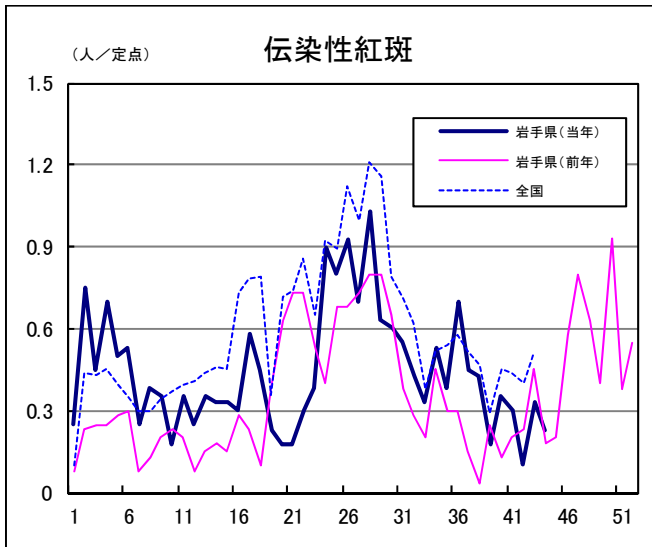
Q & A

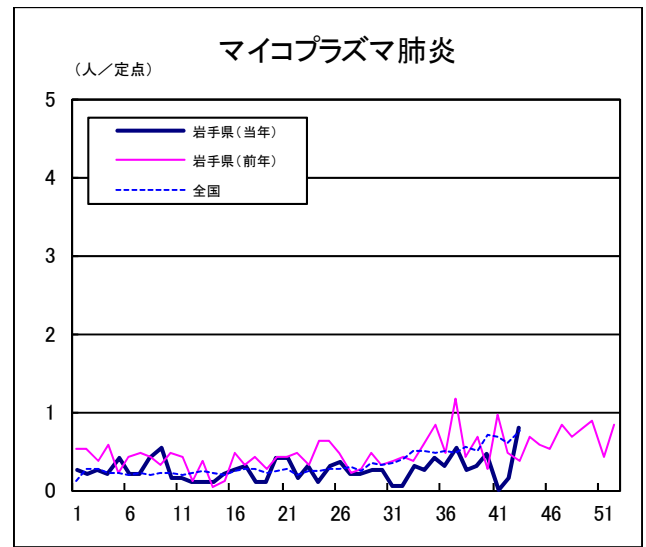
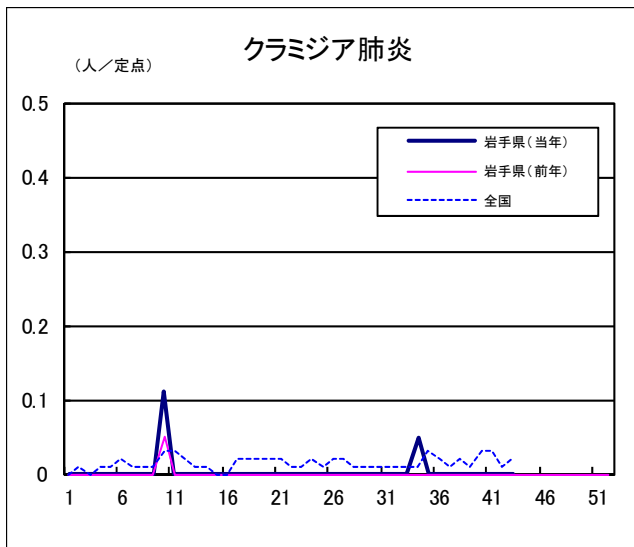
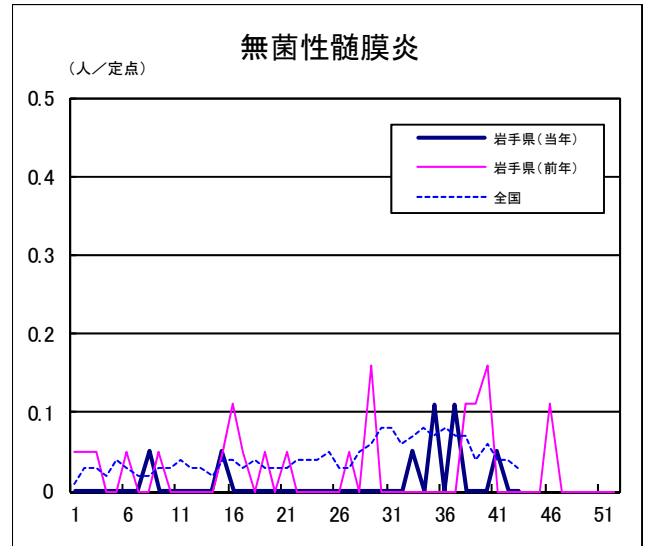
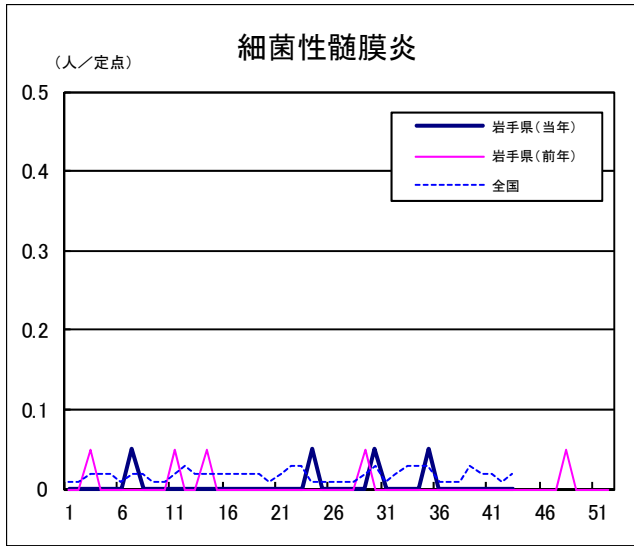
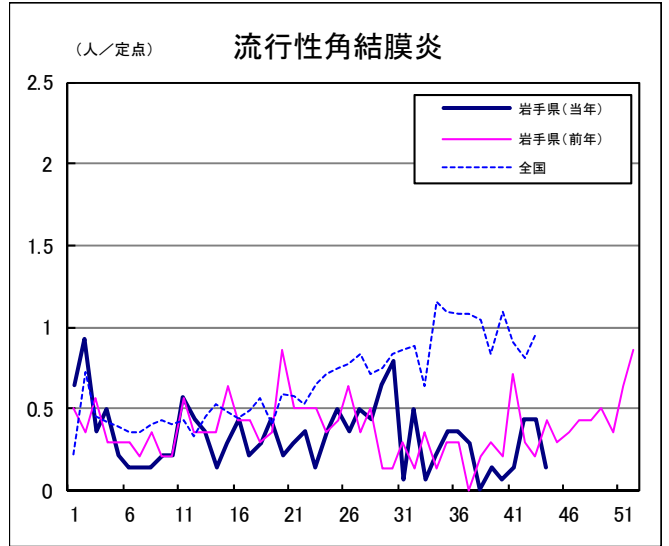
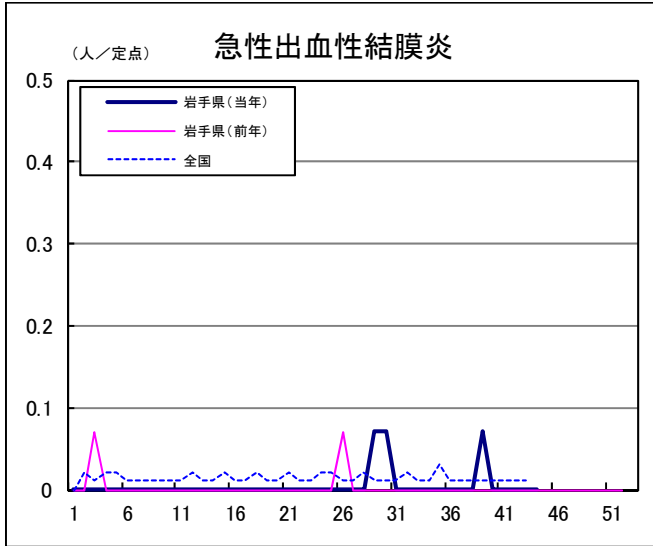
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第43週 平成27年10月30日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>